

影山巍所著上海話教科書の語言分析

任 菲

A Language Analysis of Kageyama Takashi's Shanghai Dialect Textbooks

REN Fei

要旨：本稿は影山巍が上海東亞同文書院で華語教授を担当していた時期に編纂された上海語の教科書『詳註現代上海語』（1936）と『實用速成上海語』（1937）に対して、語彙、文法、文型の三つの側面から具体的に分析した。影山の著書は今まで日本人が編纂した上海語教科書と比較すると、品詞による語彙の分類及び上海語文法に初めて注目し、現代言語学の概念を導入した点が高く評価できる。

關鍵詞：影山巍、上海話、詞彙、語法、句式

1. 影山巍及其所編上海話教科書

影山巍所著上海話教材由東京文求堂出版，其一為昭和十一年（1936）出版的『詳註現代上海語』，其二為昭和十二年（1937）出版的『實用速成上海語』。山田謙吉為其『詳註現代上海語』所作序中尊稱其為「教授」，王廷珩為其『實用速成上海語』所作序中寫道：“東瀛學友影山巍先生善辭令、好語學。先在吾國北平研究語學已經十載，復來上海探討滬諺又將十二年，故於南北語言皆極有心得。滬上東亞同文書院聘為華語教授已歷有年，所課餘之暇曾經編有中日對譯現代笑話及現代上海語二書。因內容豐富取材新穎，故深得讀者之歡迎。茲復編就實用速成上海語，逐句註有日語譯文，想此書不獨於彼邦人士之研習滬諺大有裨益，即於吾國之講究日語者亦無不為參考之善幸也。先生每著一書，輒向鄙人研討問難，孜孜不倦，實勘令人欽佩，爰識數語以為序。”可知影山巍不僅精通中國南北方言，教書育人；且著書頗多，福澤後人。經查影山巍所著書籍及文章有：1.『詳註現代上海語』（1936），文求堂。2.『現代笑話：中日對譯』（1936），

文求堂。3.『中國の民間年中行事』(1936), 住田照夫。4.『實用速成上海語』(1937), 文求堂。5.『支那人の好む色と模様』(1939), 京都商工會議所。6.『實用速成廣東語』(1940), 文求堂。7.『實用速成北京語』(1940), 文求堂。8.『新中國大眾小品文選』(1952), 九大文學部中國語研究室。9.『新中國趣味文選』(1953), 九大文學部中國語研究室。10.『支那民間四季の行事と習俗: 社会文化篇』(出版社、年代不明) 11.『中國歷代神仙仏道妖精鬼怪怪解』(出版社、年代不明) 12.「新中国と謝冰心」, 『文芸座談会ノート NO.2』(1954.11), 九大文學部中國語研究室。

經查詢國立國會圖書館主頁, 影山巍著作《《實用速成北京語》等》的「著者標目」欄中寫道“影山巍, 1895-”。可知影山巍的生年為 1895 年, 然卒年未詳, 有待考證。據目前掌握的資料推斷, 影山巍 20 歲左右來華, 1915 年-1925 年十年期間在北京, 1926 年前後赴滬, 1936 年之前已任滬上東亞同文書院華語教授。1937 年 7 月中日開戰, 10 月東亞同文書院遭焚毀, 影山巍回到日本。回國後曾任九州大學教授, 1954 年仍從事學術活動。

『詳註現代上海語』全書 143 頁 (不含附錄), 日語標題, 豎排編排, 課文部分附有假名注音及日語翻譯。影山巍並將自己多年學習上海話的心得詳細標註, 裨益學習者理解, 是該書的一大亮點。『詳註現代上海語』分「總說」、「第一篇 基本單語」、「第二篇 要語の用法と用例」、「第三篇 常用名詞集」四個部分, 另附「上海俗語林」、「支那料理の作り方とメニューの見方」、「支那の錢に就て」及「最近上海市街圖」。「總說」從「上海語とは?」、「南支音と日本の漢字音」、「外來音譯名詞」、「上海語の五聲」、「五聲の變化」、「上海語の發音」、「北京語と上海語の發音比較」七個方面進行概說, 淺顯易懂, 令學習者對上海話及其與北京話的差異有總體印象。接下來「第一篇 基本單語」挑選的是最基本、最具上海方言特色的一部分詞彙, 供學習者優先記憶, 該篇有「數の呼方」、「數詞例」、「錢勘定」、「時日」、「度量衡」、「方位」六小節。第二篇「要語の用法と用例」從詞的角度列出 84 項要語, 其中 81 項語法相關詞彙配有例句及使用心得。第三篇「常用名詞集」按類別分置「食料品」、「街頭にある飲食物の色々」、「衣類」、「家屋家具類」、「文房具化粧品類」、「時計裝身類」、「金属宝石類」、「人稱稱呼」、「身體の各部と疾病の名稱」九個章節。

『實用速成上海語』全書 145 頁, 同樣採用日語標題, 豎排編排, 上海話部分也都附有假名注音、日語翻譯和注釋。該書分「基本單語」、「日用散語例」、「實用要語例」三個篇章。第一篇「基本單語」包括「代名詞」、「日用要語」、「日用命令要語」、「日用來西形容詞」、「數詞」、「度量衡」、「方位」、「日用名詞」七個章節。第二篇「日用散語例」挑選了十二組關鍵詞和九個話題, 分別為「いる——いない」、「有る——無い」、「来る——来ない」、「行く——行かない」、「良い——悪い」、「分る——分らない」、「多い——少ない」、「出来る——出来ない」、「持って来い——持って行け」、「知る——知らない」、「事」、「物」、「買物の時」、「訪問の時」、「人に尋ねる時」、「道を聞く時」、「人

力車に乗る時」、「電車乗合自動車に乗る時」、「電話を借りる時」、「電話を掛ける時」、「人に應對する時(一)」、「人に應對する時(二)」。第三篇「實用要語例」有二十五項語法相關詞及例句。

兩本書的編排反映影山巍是從方便學習者記憶的角度來總體考量的。初學最日常最實用的詞語，再以語法詞彙為核心，學習句子。輔以詳細註解，最大程度為學習者提供方便。該書不僅對學習者，對於研究者而言，也有學習和參考價值。

2. 詞語分析

在影山巍之前，日本人所著的上海話課本中具有代表性的有御幡雅文的『滬語便商』(1892)及『滬語津梁』(1900)、杉江房造的『上海語獨案内』(1904)、大川與朔的『活用上海語』(1924)、王廷珩的『實用上海語』(1919)及『增補實用上海語』(1925)。方言詞的用字雖然一直沒有統一規範，但在上述教材中仍保有一定的統一性。影山巍在方言詞用字方面也較為謹慎，採用的基本都是當時普遍使用的字眼。當同一詞有多種字眼表示的情況時，影山巍會出註說明。如“甚人”(だれ)，影山巍註「「啥人」とも書かれます」，可謂嚴謹。

影山巍在歸納劃分上海話方言詞彙時不僅考慮到詞性，還兼顧其話題、詞彙來源及使用頻率(即是否為基礎詞彙)。名詞數量龐大，且字面上多與北京話無異，故按話題進一步細分。代詞、時間詞、方位詞、數量詞以方言詞居多，歸為日常用語。以往的上海話教材虽偶爾涉及外來詞，但都散見各章節的生詞和例句中，影山巍則專門做了歸納整理。本節將從“外來詞”、“日常用語”兩方面對影山巍收錄的上海詞彙進行梳理。

2.1 外來詞

在『詳註現代上海語』的「總說」中，影山巍提到了「外來音譯名詞」。由於上海是西方文化傳入中國的重要門戶，這些外來詞率先以上海話發音為諧音，其中不乏今天仍在使用的用例。

普通名詞及商品名：咖啡 (coffee コーヒー)¹⁾、餅乾 (biscuits ビスケット)、白塔油 (butter バター)、白蘭地 (brandy ブランデー)、色白 (supper 晚餐)、沙發 (sofa 安樂椅子)、萬華林 (violin ヴァイオリン)、摩托卡 (motor car 自動車)、馬達 (motor 發動機)、梳打 (soda ソーダ水)、巧克力糖 (chocolate チョコレート)、惠司開 (whisky ウイスキー)、雪茄煙 (cigar 葉卷煙草)、維他命 (vitamin ヴィタミン)、批霞諾 (piano ピアノ)、柯達 (kodak 小型寫真機)、軋司林 (gasoline ガソリン)、引擎 (engine 機關)、凡士林 (Vaseline ワゼリン)、高而富 (golf ゴルフ)、安琪兒 (angel 天使)、哀的美敦書 (ultimatum 最後通牒)、派司 (pass 定期券)、孔密兄 (commission コンミッション)、

¹⁾ 括號內為書中外來詞的英文及日文翻譯。

邏輯 (logic 論理學)、補爾多壽 (Blutose プルトーゼ)、海兒補 (help ヘルプ)、加蘇加拉糖衣餅 (Cascare sugar coated tablets カスカラ糖衣錠)、保利他命 (Polytamine ポリタミン)。國家名及人名：亞美利加 (America)、加拿大 (Canada)、紐育 (New York)、華盛頓 (Washington)、新嘉坡 (Singapore)、愛因斯坦 (Einstein)、列寧 (Lenin)、太戈爾 (Tagore)、墨索里尼 (Mussolini)、希特勒 (Hitler)。

2.2 日常用語

本節歸納整理了影山巍著作收錄的上海話基本詞彙，這些詞區別於普通話，具有方言特色，且在日常生活中使用頻率很高。

首先是代詞。人稱代詞有“我”(わたし)、“侬/我侬”(私達)、“儂”(あなた)、“儂”(あなた方)、“伊”(あの人)、“伊拉”(彼ら)。其中關於第一人稱的說法，影山巍解釋道，「また上海では「私」のことを「阿拉」ともいひ、而も慣用語として随分廣く使われて居りますが、これは本来寧波語であります。」從中可知，寧波話的“阿拉”在當時已經融入上海方言，且被廣泛使用，現在，“阿拉”已經完全替代了老上海話的“我”。指示代詞近指事物的有“地個”和“地隻”，近指處所的有“地面”、“此地”、“地頭”；遠指事物的有“伊個”和“伊隻”，遠指處所的有“伊面”和“伊頭”。指示代詞還有“格能”(こんな、こんな)、“伊能”(あんな、あんな)。

疑問代詞有“阿里一個”(どれ、どの)、“甚”(なに、なんの)、“甚地方/甚場化/甚處/甚須塊/阿里”(どこ)、“甚人”(だれ)、“那能”(なぜ、どうして)。

名詞詞綴“～頭”，錢乃榮(1997:32)總結了與不同語素結合的詞綴“頭”，並根據語意進一步劃分歸類。影山巍書中收錄的用例佔兩項，其一只增加音節，如“紙頭”(紙)、“甌頭”(煉瓦)、“洋蔥頭”(玉ねぎ)、“大蒜頭”(にんにく)。其二表示時空位置(“那時”或“那兒”)，如“早晨頭”(朝)、“夜頭”(夜)。

與節令、時間相關的名詞，如一年四季的“春天”可說“春上”，“夏天”可說“夏當”，“秋天”可說“秋天光”，“冬天”可說“冬季裡”。與月數相關的有“本月/地個月”(今月)、“前月/上月”(先月)、“下月/出月”(來月)、“大月底”(晦日)、“小月底”(十五日晦日)、“月半”(月半)。其他時間詞還有“今朝”(今日)、“明朝”(明日)、“昨日”(昨日)、“前日”(一昨日)、“後日”(明後日)、“大前日”(一昨昨日)、“大後日”(明後後日)、“前日子”(先日)、“伊日子/着過日子”(過日)、“地兩日”(この兩三日)、“前兩日”(二三日)、“過兩日”(二三日過ぎ)、“一日隔一日/日隔日”(隔日)、“每日”、“日腳”(日)、“當日/當天”、“上半日”(午前)、“下半日”(午後)、“早晨頭”(朝)、“中上”(正午)、“日裡向”(晝間)、“日中心”(日中)、“夜快動”(夕暮近く)、“夜頭”(夜)、“夜裡向”(夜中)、“半夜把”(真夜中)、“天亮快”(夜明け頃)、“甚晨光”(何時)、“地槍”(この頃)、“地歇/現在”(今)、“刻刻”(今し方、只今)、“地轉”(今回)、“地趟”(今回)、“上轉”(前回)、“上趟”(前回)、“下轉”(次回)、“下趟”(次回)、“晏歇”(後

程)、“從前/前頭”(以前)、“朝後”(爾後)、“後首來”(其後)、“常莊”(常常)、“本來/本底子/原來”(本來)。

其他名詞如“老虫”(鼠)、“傢生”(家具)、“事體”(事柄)、“溼浴間”(浴室)、“衣裳”(着物)、“珍珠米”(玉蜀黍)、“落蘇”(茄子)、“洋山芋”(じゃが芋)、“阿木林”(木偶の坊、阿呆)、“阿土生”(物識らず、馬鹿)、“壽頭”(ぐつ、お人よし)、“東洋豬羅”(日本人に対する悪口)、“東洋烏龜”(日本人に対する悪口)、“曲死”(罰あたり、死にぞこなひ)、“印度阿三”(印度人に対する綽名)、“印度黑炭”(印度人に対する悪口)、“滑頭碼子”(狡猾の奴)、“小滑頭”(狡猾な若者)、“小鬼頭”(吝な奴)、“赤老”(鬼、恐ろしい奴)、“小赤老”(油断ならぬ小僧)、“三弗像”(成って居ない奴)、“小癩三”(搔浚ひ小僧)、“赤腳人”(下等人足)、“姆媽”(お母さん)、“爺叔”(叔父さん、父の弟)、“小人/小囡”(子供)、“女小人/女小囡”(女の子)、“鼻頭”(鼻)、“額角”(額)、“指頭”(指)、“奶奶”(乳房)、“肚皮”(腹)、“腳胖”(脛)、“腳饅頭”(膝こぞ)。

方位詞有“上頭”(上)、“下頭”(下)、“前頭”(前)、“後頭”(後)、“外面”(外)、“裡面”(中)、“對面/對過”(向ひ)、“當中”(真中)、“右手”(右)、“左手”(左)、“嘴角上”(角)。數量詞中比較有特色的如“一家頭”(一人)、“兩盃稀飯”(兩碗の粥)、“一月店”(一軒の店)、“一處房子”(一個所の家)。

影山巍沒有設章節歸納動詞，而是在「要語」的例句中對動詞作註。這樣的編排有助學習者提高學習效率，更方便學習者結合語境記憶。

3. 詞法分析

副詞、介詞、助詞、連詞多具有特殊語法功能，以例句的形式更方便學習者學習記憶。影山巍書中不僅設有專門的章節進行歸納，還標註了詞性。『詳註現代上海語』中的「要語的用法と用例」收錄了81項，『實用速成上海話』中的「實用要語例」收錄了25項。除去重複項，兩書共收錄88項「要語」，本節參考相關上海話著作作出分析，與普通話闡述一致條目，從簡。

3.1 副詞

來西：影山巍作註先解釋“來西”的用法，並比較與日語イ形容詞的異同，日語與中國南方方言的關連：「來西は本来形容詞の下に置かれて其の意味を強める詞であります、實際慣習上時に単なる形容詞の語尾の如く用ひられることもあります。日本語形容詞中の「愛らし」「憎らし」「素晴らし」「しほらし」「みすほらし」などの「……らし」の音とその用途の相似たる點は、日本語と對岸南支那の言葉との因縁の浅からざるを想はしめ、極めて興味深きものがあります」。該註反映出影山巍在語言學方面的學術性。錢乃榮(1997:158)對程度副詞“來西”的解釋為“附著於謂詞後，和謂詞連讀作一個語音詞……用於形容詞和心理動詞後，表示‘很’的意思”。影山巍在『實

用速成上海語』の第四章中專門歸納了這一結構，稱其為『來西形容詞』，該章節收錄了日常使用較頻繁的詞，有“好來西”（良い）、“壞來西”（悪い）、“大來西”（大きい）、“小來西”（小さい）、“貴來西”（高い）、“強²⁾來西”（安い）、“熱來西”（熱い）、“冷來西”（寒い）、“清爽來西”（清潔な、ハッキリした）、“齷齪來西”（不潔な、穢い）、“快來西”（快い）、“慢來西”（遅い）、“高來西”（高い）、“矮來西”（低い）、“遠來西”（遠い）、“近來西”（近い）、“重來西”（重い）、“輕來西”（軽い）、“長來西”（長い）、“短來西”（短い）、“多來西”（多い）、“少來西”（少ない）、“寬來西”（廣い）、“狹來西”（狭い）、“厚來西”（厚い）、“薄來西”（薄い）、“細來西”（細い）、“粗來西”（太い）、“硬來西”（堅い、荒い）、“軟來西”（柔らかい）、“難來西”（むづかしい）、“容易來西”（容易い）、“便當來西”（便利な、勘弁な）、“討厭來西”（五月蠅い）、“鬧猛來西”（賑やかな）、“忙來西”（いそがしい）、“時髦來西”（ハイカラな、モダンな）、“癩腳來西”（見すばらしい、見苦しい）、“風涼來西”（涼しい）、“適意來西”（心地よい）、“衰惰來西”（だるい）、“苦惱來西”（悩ましい、せつない）、“客氣來西”（遠慮な、鄭重な）、“兇來西”（凶悪な、きつい）。

美：影山巍註作「副詞」，解釋為：「非常に、甚だ。「美」の代わりに「怪」「交關」をも使ふ、北京語の「很」に當る。」用例有：今朝美熱。（今日は非常に熱い。）客人美多。（客が非常に多い。）中國菜美好吃。（支那料理は大變うまい。）伊個身量美高。（彼の身長は非常に高い。）地個物事美清爽。（この物は非常にきれいだ。）西湖個景美好看。（西湖の景色は大變綺麗だ。）

忒：影山巍註作「副詞」，解釋為：「餘り……すぎる。北京語の「太」「過於」に當る。」用例有：辰光忒早。（時刻が餘り早すぎる。）地個物事價錢忒貴。（この品は値段が餘り高すぎる。）今朝因為禮拜去個人忒多。（今日は日曜だから行く人が多すぎる。）地條繩子忒長，再短個有否？（この繩は長すぎる、もっと短いのがありませんか？）燒小菜用個作料擺來³⁾勿好忒多，也勿好忒少。（お菜を煮る時に使ふ調味料は、多すぎても少なすぎてもいけない。）

一眼：影山巍註作「副詞」，解釋為：「少し。北京語の「一點兒」「一些」に當る。」用例有：好一眼個有否？（少し良いのがありますか？）今朝比昨日冷一眼。（今日は昨日より少し寒い。）價錢是一樣、分量多一眼。（値段は同じで目方が少し多い。）跑來勿要快，慢一眼。（はやく走ってはいかん、少しゆっくりしなさい。）<影山巍註「跑來」＝「走り方、走り工合」、北京語の「跑的」に當る。>伊拉全拉伊面等儂，儂快一眼去。（彼等は皆あちらに待って居るから、君はやめに行きたまへ。）

頂：影山巍註作「副詞」，解釋為：「一番、最も、極めて。」用例有：地個是頂好個。

²⁾ 影山巍造“貝貝”字，因無法輸入，用“強”代替。《簡明吳方言詞典》作“強”，《明清吳語詞典》作“強”和“噉”，《上海話大辭典》、《上海方言詞典》都作“噉”。

³⁾ 影山巍解釋：「擺來」＝「入れ方、入れ工合」、北京語の「擺的」「擺的」に當る。

(これは一番よいのです。) 頂大個是儂個。(一番大きいのがあなたのです。) 伊個是頂小個, 再小無沒。(あれは一番小さいので、あれより小さいはありません。) 地個是頂便當個。(これは一番便利なものです。) 頂好個米幾錢⁴⁾一升? (一番良い米一升いくらですか?) 坐飛機去頂快。(飛行機に乗って行けば一番はよい。)

幾化：影山巍註作「疑問副詞」，解釋為：「何程、いくら。北京語の「多少」に當る。」用例有：儂要幾化工錢? (お前はいくらの給金が欲しいのか?) 一個禮拜有幾化日脚? (一週間は何日ですか?) 儂要幾化有幾化。(君の欲しいだけいくらでもある。) 稱稱看有幾化分量。(目方がいくら有るかはかつて見なさい。) 從上海到廣東去要幾化盤費? (上海から廣東へ行くにはいくらの旅費が掛りませうか?) 四十五減脫三十是幾化? (四十五から三十を引けばいくらか?)

刻、刻刻、剛、剛剛、纔：影山巍註作「副詞」，解釋為：「今し方、たった今、過去の時間を表す。「纔」は「才」を用ふれも可、北京語にては「剛」「剛剛」「纔」「剛纔」「將纔」「方纔」「纔剛」等を用ふ。」用例有：伊有眼事體刻出去者。(彼は少し用事があって今出て行きました。) 我昨日刻刻轉來明朝又要出門去。(私は昨日帰ったばかりで、明日又旅行に出掛けます。) 地個人剛到此地來，碰着一個討賬人。(この人はたった今ここへ来て、借金取にぶつかった。) 剛剛出版大美夜報五個銅板一張。(今出たばかりの大美夕刊が一枚銅貨五文<新聞賣子の呼聲。>) 從南京來個特別快車纔到者。(南京からの特別急行が今着きました。)

3.2 介詞

撥：對於介詞“撥”，影山巍解釋為：「1.「動詞」與る。2.「補助動詞」……してあげる。3.「補助動詞」……貫ふ、くれ。4. 受身の「助動詞」……に……される、北京語の「給」に當たる。」⁵⁾用例有：1. 我拿車錢撥拉車夫。(僕は車夫に車費を與へる。) 儂替我撥伊酒錢。(君あれに酒代をやってくれ賜へ。) 撥儂地塊橡皮糖吃，勿要再哭。(お前にこのチュウインガムをやるから、もう泣くな。) 2. 請儂等一歇，我帶來撥儂。(どうぞ一寸を待ち下さい、持って来てあげますから。) 勿要買，我去借撥儂。(買んでもよろしい、僕が借りに行ってやるから。) 地封信是寫撥甚人個? (この手紙は誰に書いてやるのですか?) 3. 有強個拿出來撥我看看。(安いのがあったら出して見せて下さい。) 請儂介紹介紹撥我。(どうぞ私に紹介して下さい。) 借撥我自來墨水筆好否? (私に万年筆を貸してくれませんか?)

搭、替、搭之：影山巍解釋為：「1.「前置詞」……と、……に。2.「接續詞」……と(それと)、北京語の「和」「跟」「同」或は「替」に當たる。」用例有：1. 搭甚人商

⁴⁾ 影山巍解釋：「幾錢」を「幾鈔」とも書く、北京語の「多兒錢」「多少錢」に當る。

⁵⁾ “撥”の第4點相關用例見下文4.3 被動句。

量好呢。(誰と相談したらよいでせうか。) 儂有甚事體、搭伊話好者。(君は何か用があったら、あの人に話したらよろしい。) 搭地個一樣個還有否?(これと同じのがまだ有りませうか?) 儂替甚人搶嘴?(君達は誰と口論したのだ?) 我地歇要淨浴、儂替我去好好教⁶⁾端正來。(僕は今風呂に這入るから、君ちゃんと用意して来てくれ。) 地只錶儂替我拿去修修揩揩油吧。(この懐中時計を修繕と掃除に持って行ってくれ。)

2. 我有一個阿哥搭之一個妹妹。(私には一人の兄さんと妹が居ります。) 伊拉有嘗時⁷⁾看看新聞紙搭之小說咯甚⁸⁾。(彼等は或時は新聞や小説などを 읽みます。) 照今朝個行情兌一塊洋錢合十角搭之三百錢。(今日の相場では、一弗は十角と銅貨三十文です。)

3.3 連詞

咯：影山巍解釋為：「……てから。」用例有：揀好咯買。(選ってから買ふ。) 看好咯定。(見てから注文する。) 買一隻咯試試看。(一つ買って試して見る。) 吃飽之咯轉去吧。(充分食べてからお帰りなさい。) 問之本人咯定規。(本に聞いてから定めます。) 交之貨色咯收銀子。(品物を渡してから收金します。) 商量好之咯撥押費。(よく相談してから保証金を出します。) 銅錢收好之咯寫張收條。(錢を受取ってから受領書を書く。) 到之月底咯結帳。(月末になってから結算します。) 貨色舒齊之咯開張發票吧。(品物が揃ってからインボイスを書きませう。) 休息一歇之咯再做工吧。(少し休んでから仕事をしなさい。)

連到……也 / 都……：影山巍註作「接續詞」，解釋為：「……さへも……、北京語の「連……都 / 也……」に当たる。」用例有：連到一個人也勿曉得。(一人さへも知らない。) 連到一口也勿想吃。(一口さへも食べたくない。) 今朝天熱來⁹⁾連到一眼風也無沒。(今日は天氣が熱くて少しの風さへも無い。) 伊個人是個滑頭碼子¹⁰⁾，連到一個人全勿理伊。(あの人間は狡い奴だから、一人でも彼を相手にする者はない。) 我今朝頭痛來邪氣¹¹⁾、連到飯全吃勿落¹²⁾。(僕は今日頭がひどく痛いので飯も食べない。)

連……搭之……：影山巍註作「接續詞」，解釋為：「……から……まで、北京語の「連……帶……」に当たる。」用例有：連房錢搭之飯錢、攏總多化?(部屋代から食費まで、合計いくらですか?) 連火車票搭之船票有一百塊美夠者。(乗車券から乗船券まで、百弗あれば十分です。) 連新到個貨色搭之存貨、全賣完者。(新着品からス

⁶⁾ 影山巍解釋：好好教 = よく、ちゃんと、北京語の「好好兒的」に当たる。

⁷⁾ 影山巍解釋：有嘗時 = 或時は、北京語の「有時候兒」に当たる。

⁸⁾ 影山巍解釋：咯甚 = ……など、北京語の「什麼的」に当たる。

⁹⁾ 影山巍解釋：熱來 = 熱くて、北京語の「熱的」に当たる。

¹⁰⁾ 影山巍解釋：滑頭碼子 = 狡い奴、狡猾な奴、北京語で云へば「滑頭の東西」或は「賊鬼溜滑の人」。

¹¹⁾ 影山巍解釋：邪氣 = ひどい、きつい、烈しい、北京語の「厲害」。

¹²⁾ 影山巍解釋：吃勿落 = 食べられぬ、喉に通らぬ、北京語の「吃不下」に当たる。

トックまで、皆賣切れました。)

為之……格咯……：影山巍註作「接統詞」，解釋為：「……だから……それ故に……、原因結果を表す。北京語では「因為……所以……」の方を使ふ。」影山巍也收錄了上海話中的“因為……所以……”，因與普通話相同，故不再舉例。“為之……格咯……”的用例有：**為之落雪¹³⁾格咯我無沒去。**(雪が降ったので、僕は行かなかった。) **為之禮拜日格咯到花園裡去白相個人怪多。**(日曜日だから、公園へ遊びに行く人が大變多い。)

3.4 助詞

個：影山巍解釋為：「1.「助詞」……の、所有格を表す。2.「代名詞」……もの。3.「助詞」形容詞或いは動詞的形容詞に附せられる。4.「助詞」断定句の末尾に附する。北京語の「的」に當る。」用例有：1. **地個是我個鉛筆。**(これは私の鉛筆です。) **伊個是儂個毛筆。**(あれはあなたの毛筆です。) **地個是儂個否?**(これはあなたののですか?) 2. **地個是買來個。**(これは買って来たものである。) **地隻是一個朋友送來個。**(これは一人の友達が呉れたものです。) **小個便宜大個貴。**(小さいのは安く、大きいのは高い。) 3. **地歇是頂熱個辰光。**(今は一番熱い時である。) **地個是伊辦來個貨色。**(これは彼が仕入れて来た品物である。) 4. **本月個月底一定清賬個。**(今月の月末に必ず清算します。) **儂放心末者，勿會有錯個。**(あなた御安心なさい、決して間違はありませんから。)

者：影山巍註作「助動詞」，解釋為：「1. ……た、単純過去を表す。2. 完了を表す。3. 断定句の末尾に附する「助詞」、北京語の「了」に當る。」用例有：1. **伊前日回國者。**(彼は一昨日帰国した。) **伊昨日吃醉者。**(彼は昨日酔った。) **我今朝上半日尋伊去者。**(僕は今日午前に彼を尋ねて行った。) 2. < a. 過去完了の場合 > **伊已經鄉下去者。**(彼は已に田舎へ行った。) **伊片公司個股票早已賣完者。**(あの会社の株券はとっくに売切れました。) < b. 現在完了の場合 > **儂看看看妹妹來者。**(見なさい、妹が来た。)

電話來者，儂去聽聽看。(電話が来た、お前行って聴いて見なさい。) **六點鐘敲過者，我佢去吃夜飯吧。**(六時が打ちました、私達は晩御飯を食べに行きませう。) < c. 未来完了の場合 > **伊拉開年要畢業者。**(彼等は明年卒業します。) **大約兩三日裡就要轉來者。**(大概兩三日中に帰って来ます。) **年底快者，大家要豫備過年者。**(年末が近づいたから、皆がお正月の準備をします。) 3. **現在拉上海個日本人有三萬多者。**(今上海の日本人は三萬餘り居ります。) **伊拉北平登過十年，格咯伊北平話話來美好者。**(彼は北平に十年居ました、だから彼は北平語が大層上手です。) **趁火車末只要八個多鐘頭可以到者。**(汽車に乗れば、僅かに八時間餘りで着けます。)

¹³⁾ 影山巍：落雪 = 雪が降る、北京語では「下雪」。

拉者：影山巍註作「助動詞」，解釋為：「……しつつあった、過去の進行状態を表す。北京語の「來着」に當る。」用例有：伊拉拉樓上話拉者。（彼等は二階で話をして居た。）等。此解釋筆者認為不妥。錢乃榮（2018：487）用字“拉哉”，解釋道“<助> [舊]表示現在完成。”錢乃榮（2018：483）關於“哉”的幾點解釋中，有“表示事件的現在狀態：鐘停哉。”、有“與進行體助詞‘辣辣/辣海’一起，表示現在進行時態：伊辣辣讀書哉。”、也有“與存體助詞‘辣辣/辣海’一起表示現在完成時態：奶媽請辣海哉。”錢乃榮（1997：212）表示“‘完成體’助詞用於句末，賓語要前置於動詞，句尾的‘了’不能讀成‘仔’，而是舊式的‘哉/者’……‘完成體’除了助詞‘好’還在普遍使用外，‘拉’已在退化。……句尾的‘了’像普通話的‘了₁（體）’和‘了₂（語氣）’一樣合為一個‘了’（原來是‘拉哉’或‘拉了’）。”

筆者更讚同錢乃榮的解釋。但影山巍用例的句式是“拉……拉者”，因此筆者認為這句話應為實現體的進行式，“伊拉拉樓上話拉者。”應解釋為“他們已經在樓上聊天了。（聊天這件事是提前約好的，現在預約要做的這個事情實現了，並且還在進行。）”日語應翻譯為「彼等はもう二階で話をしている。」。在其他「用語」的用例中有也“……拉者”，且都表示現在完成的意思。如：撥癩三連大衣搭之帽子都偷去拉者。（搔癢ひ乞食から、オーバーからぼうしまで皆盗られた。）統統壞忒¹⁴拉者，連到一個好個全無沒。（皆こわれて居て、一つも良いのが無い。）連伊件事體搭之地件事體都辦舒齊¹⁵拉者。（あの事からこの事まで、皆して仕舞いました。）昨日忽然間連房東搭之二房東都吃官司拉者。（昨日突然に家主から間貸人まで、訴へられた。）

過、歇過、過歇：影山巍註作「助動詞」，解釋為：「……たことがある、過去の經驗を表す。北京語では「過」のいみを使ふ。」用例有：我搭伊話過。（私は彼を話したことがある。）伊拉從前到過日本。（彼等は以前日本に行ったことがある。）伊個阿哥拉南京做過生意。（彼の兄さんは軟禁で商売をしたことがある。）我因為無沒出歇過遠門，所以外面情形一眼勿熟悉個。（私は遠くへ出たことが無いので、餘所の事情は少しも分かりません。）我拉上海個辰光中國菜吃歇過、就是俄國菜無沒吃過歇。（私は上海に居た時に支那料理は食べたことがあります、唯だ露西亞料理は食べたことはありません。）

哩：影山巍解釋為：「1. ……よ、結尾の助詞、北京語の「了」「哪」に当たる。2. ……か、疑問の助詞、北京語の「啊」「呢」に当たる。」用例有：1. 我促也來之勿多一歇哩。（私達も来てからまだほんの暫くにしかならんのですよ。）晏點¹⁶作興¹⁷有陣頭

¹⁴ 影山巍解釋：壞忒拉者=こわれて居る、北京語の「壞了」に当たる。

¹⁵ 影山巍解釋：辦舒齊拉者=やり終わって居る、して仕舞である、北京語にすれば「辦齊結了」である。

¹⁶ 影山巍解釋：晏點=あとで、後程、「晏歇」に同、北京語の「回頭」「待會兒」に当たる。

¹⁷ 影山巍解釋：作興=……かも知れぬ、北京語の「也許」に当たる。

雨¹⁸⁾拉哩。(あとで俄雨が来るかも知れませんよ。)2. 貴國北邊地方、爲甚還要冷哩?(御國の北の方は、なんでせうかもっと寒いのでせうか?) 格是¹⁹⁾儂頭一年拉上海過冬哩?(それではあなたは初めて上海で冬を過ごされるのですか?)

吧(罷): 影山巍註作「助詞」, 解釋為:「1. 命令、……なさい、……せよ。2. 推測、……でせう、……だろう。3. 希望、……て下さい、……たまへ。4. 自己雨の意志を表す、……ませう、……いやう。等。」用例有: 1. 七點鐘敲過者, 儂起來吧。(七時が鳴った、起きなさい。) 儂火速去上課吧。(お前早く学校へ行きなさい。) 儂拉課堂裡好好教²⁰⁾用功吧。(お前は教室でよく勉強しなさい。) 2. 伊個病已經好拉吧。(彼の病気はもうよくなったでせう。) 地歇辰光伊大概勿拉屋裡吧。(今頃は彼は多分家に居ないでせう。) 今朝為之落雨天伊獨怕²¹⁾是勿來吧。(今日は雨降りだから、彼は恐らく来ないでせう。) 3. 請儂代我搭伊說吧。(どうぞあなた私に代わって彼に話して下さい。) 辰光勿早者、地件事體改日再搭儂商量吧。(時刻が移りました、この事は後日又御相談致しませう。) 伊面儂有朋友末、請儂撥我寫封介紹信吧。(あちらにお友達が居りましたら、どうぞ紹介状を書いて下さいませんか。) 4. 難²²⁾、無沒法子只好打官司吧。(ぢゃあ、仕方が無い、訴訟を起こすことにしやう。)

呀: 影山巍註作「助詞」, 解釋為:「1. 命令。2. 疑問。3. 驚嘆。北京語の「啊」「呀」に当たる。」用例有: 1. 儂跑來勿要快、慢慢教跑呀。(お前早く走ってはいけない、ゆっくり歩け。) 2. 長遠勿見者、儂好呀?(久しくお目に掛かりませんでした、御機嫌よろしいございますか?) 3. 到底是甚道理真奇怪呀。(一體どうしたことだろう、本當におかしいな。) 交關人哇啦哇啦²³⁾吵起來是甚事體呀。(澤山な人が騒出したが、何事だろう。)

呢: 影山巍解釋為:「……か、疑問の助詞。」用例有: 實號幾時開市呢?(お店は何時御開店ですか?) 現在大減價呀、儂為甚略²⁴⁾勿買呢?(今は大割引なのですが、あなたはどのようにして買ひませんか?) 地星物事還有用哩、那能可以攢脫²⁵⁾呢?(これは

¹⁸⁾ 影山巍解釋: 陣頭雨=俄雨、急雨、北京語の「一陣兒暴雨」に当たる。

¹⁹⁾ 影山巍解釋: 格是=それでは、それなら、「格末」に同、北京語の「那麼」に当たる。

²⁰⁾ 影山巍解釋: 好好教=よく、ちゃんと、北京語の「好好的」に当たる。

²¹⁾ 影山巍解釋: 落雨天=雨天、雨降、北京語の「下雨天兒」に当たる。獨怕=恐らく、多分、北京語の「恐怕」に当たる。

²²⁾ 影山巍解釋: 難=それなら、そこで、「奈」「乃」とも書かれる。「奈末」に等しく、北京語の「那麼」「那麼着」に当たる。

²³⁾ 影山巍造「口壞」字、因無法輸入、本文以“哇”字代替。影山巍解釋: 哇啦哇啦=これは上海独特の言葉であり、本来はがやがや騒ぐことの形容詞であるが、実際に使われる範囲は非常に広く、即ち、問題を起こす、口論する、不服をいふ、小言をいふ、怒る等の意味に用ひられる。

²⁴⁾ 影山巍解釋: 為甚略=なぜ、どうして、北京語の「為什麼」に当たる。

²⁵⁾ 影山巍解釋: 攢脫=捨てて仕舞ふ、「攢忒」とも書く、北京語の「扔了」に当たる。

皆使道があるのだよ、なぜ捨てるのか?)

拉：影山巍解釋為：「現在の状態を表す助詞、北京語の「哪」に当たる。」用例有：伊還無沒來拉。(彼はまだ来ていない。) 請儂看看、價目地頭寫出拉。(どうぞ御覽下さい、値段は此處に書出してあります。) 伊地歇拉法租界開片水果店拉。(彼は只今佛蘭西租界で、果物屋を開いて居ります。) 我聽人家話押頭店個利息交關重拉。(人の話聞くと、小質屋の利息は随分高いそうです。) 拉上海出版個英文報、有字林報、大陸報、還有上海泰晤士報咯甚好幾種拉。(上海で発行して居る英字新聞は、字林報、大陸報、それに上海タイムスなど澤山な種類があります。)

之：影山巍沒有總結該助詞用法。但書中也收錄了相關用例。錢乃榮(2018:480)用“仔”字，總結了多種意義及用法，影山巍書中收錄的用例符合其中三類，1.“表示實現體，事件過去發生或已經實現。”如：撥土匪搶之去者。(土匪に掠奪された。) 一隻羊子撥狼咬之去者。(一匹の羊が狼にうわへて行かれた。) 為之平常日腳勿講究衛生格咯生之大病者。(平常衛生を重んじないから、大病に罹つた。) 伊雖然老底子賺足之勿少銅錢，但是今年滙水上吃虧之交關。(彼は以前澤山な金を儲けたが、今年為替で随分損をした。) 伊本書是伊日子丁先生借之去還勿層還哩。(あの本は過日丁さんが借りて行ってまだ返さないのですよ。) 2.“表示行為的將來落定。”如：等到新米上之市，米個行情作興可以鬆點哩。(新米が市場に出れば、米の相場は安くなるかも知れませんよ。) 我回去商量之咯，再撥回音伊吧。(私は帰って相談してから、彼に返事をしませう。) 晏歇轉來之再細細教²⁶⁾話撥儂聽吧。(あとで帰って来てから、詳しくお話しませう。) 事體辦好之早點回來呀。(用事が済んだら、早く帰って来い。) 3.“表示提醒、警告的語氣”。如：地個是要緊個事體，儂記好之勿要忘記。(これは大切な事だから、君はよく覚えて居て忘れてはならぬ。)

3.5 一詞多性

拉、咧拉：影山巍解釋為：「1.「動詞」……に在り、……に居る。「咧啦」をも使ふ。2.「助詞」……に於て、……で。北京語の「在」に当たる。3.「助詞」……つつある、……て居る。北京語の動詞の下に置かれる「着」に当たり、上海語の場合は動詞の上に置かれ、動作の現在進行を表す。」用例有：1. 伊拉樓上。(彼は二階に居る。) 李先生拉房間裡。(李さんは部屋の中に居る。) 伊個阿姐現在咧啦美國。(彼の姉は今米国に居る。) 2. 伊現在住拉天津。(彼は天津に住んでいる。) 伊拉拉客廳裡說話。(彼等は客間で話をしている。) 我佻明朝拉學堂裡開會。(僕等は明日学校で會を開きます。) 3. 有人咧拉打。(御話中です。) 伊現在咧拉吃飯。(彼は今食事中です。) 外頭咧拉落雨，儂勿要出去。(外は雨が降って居るから、出掛けるな。) 儂拉做甚，阿是

²⁶⁾ 影山巍解釋：細細教 = 詳細に、詳しく、細かく、北京語の「細細兒的」「詳細的」に当たる。

拉用功? (君等は何をして居ますか、勉強をして居るのですか?) 勿是, 我侬拉白相。(いいえ、私達は遊んで居ります。)

起來：影山巍解釋為：「1.「補助動詞」……だす、……はじめる。2.「助動詞」……ば、……たら。仮定を表す。」用例有：1. 天陰起來者。(空が曇りだした。) 儂看看雪落起來者。(御覧なさい、雪が降りだしました。) 伊拉兩家頭打相打起來者。(彼等二人は喧嘩をはじめました。) 拉上海個東洋人慢慢教還要多起來哩。(上海の日本人は追迫にまだ多くなりますよ。) 年底快者, 各店家生意要鬧猛起來者。(年末が近いので、各商店の商売は忙しくなって来ました。) 2. 地個物事看起來美好看, 但是勿大牢。(この品物は見たところは大變に立派ですが、併しあまり丈夫ではありません。) 十四拿六乘起來是幾化。(十四に六が掛ければ幾何か?)

4. 句式舉例

4.1 SOV 語序

與普通話不同的是, 上海話的語序除了 SVO, 還有 SOV。錢乃榮 (1997: 261) 提及：“上海話的句子裡，賓語往往前置於動詞，尤其是在常規性行為句，在經歷體、完成體、起始體、繼續體、存續體、完成進行體、動詞後帶補語以及是非問的句子裡，通常使用‘SOV’形式。”在影山巍的書中也有所表現：**經歷體**：儂飛機坐歇過否？（あなたは飛行機に乗ったことがありますか？）**完成體**：地封信郵票都貼拉、投拉信箱裡好者。（この手紙は切手も貼ってある、郵便函に入れたらよいのだ。）**起始體**：伊諸貨色定起來要幾化日腳？（あの品物は注文すれば何日掛かりますか？）**存續體**：學生子拉課堂裡、字寫拉者²⁷⁾。（生徒は教室で字を書いていた。）我拉此地報看拉者。（僕はここで新聞を見て居た。）老頭子拉客堂間裡棋紮拉者。（老人が客間で碁を打って居た。）一個女招待拉伊面電話打拉者。（一人の女給があちらで電話を掛けていた。）**動詞後帶補語**：儂拿地封信送到郵政局去、郵票已經貼好拉者。（お前この手紙を郵便局に持って行け、切手はもうちやんと貼ってある。）**是非問**：儂東洋話會否？（君は日本語が出来ますか？）地個物事現成個有否？（この物は出来合のがありますか？）

4.2 比較句

上海話的比較句有很多類型，其中大部分與普通話相同。錢乃榮 (1997: 282-285) 歸納的比較句，其中一種是逆比，逆比中有一類用“無沒”表示。影山巍解釋：「……程……でない。否定及び比較に用ふ。」用例有：我個無沒儂個好。（私ののはあなたの程よくない。）上海無沒北平格能冷。（上海は北平の様にこんなに寒くはない。）

²⁷⁾ 筆者認為影山巍對“拉者”表示過去進行時的解釋不妥，詳見上節“3.4 助詞”關於“拉者”的闡述。該4句用例的日語翻譯句末的「……ていた。」應改為「……ている。」

4.3 被動句

上海話用“撥”表示被動。用例有：地隻花瓶撥伊弄壞者。（この花瓶は彼にこわされた。）撥海關上充公拉者。（税關に没収された。）撥東家話拉者。（主人に叱られた。）撥馬踢傷拉者。（馬に蹴られた。）撥一條狗吃脫拉者。（犬に食われて仕舞った。）撥伊拉用脫拉者。（彼等に使われて仕舞った。）撥別人家曉得拉者。（外の人に知られた。）

4.4 處置句

即把字句，上海話用“拿”。影山巍解釋：「……を、目的格を表す前置詞。北京語の「把」に当たる。」用例有：到之夜裡向拿門關起來。（晩になったら門を締めなさい。）對勿住，拿伊隻帽子授撥我。（済みません、その帽子を取って下さい。）拿辣醬油擺拉裡向美好吃個。（ソースを中に入れば、大變にうまいです。）

4.5 提頓句

錢乃榮（1997：288）指出，“上海話，特別是老上海話中，經常使用提頓句，有的是使被陳述的對象通過提頓得以突出，有的是表示假設、原因或選擇等。”比如“末”，影山巍解釋：「……なら、……たら。」用例有：要末拿去。（いるなら持って行きなさい。）勿要末拉倒。（いらぬなら止めなさい。）儂來末我等儂。（あなたが来るなら私は待ちませう。）有工夫末，常莊過來白相相。（お暇が有りましたら、しよっ中お遊びにいらっしやい。）要到東洋去末，坐上海丸去好者。（日本へ行かれるのなら、上海丸に乗っていらっしやい。）

4.6 疑問句

否（……か？）用例有：東京登過否？（東京に居たことがありますか？）儂前頭上海來過否？（あなたは以前上海に来たことがありますか？）杭州個西湖去白相過否？（杭州の西湖へ遊びに行ったことがありますか？）地條街上東洋人家有個否？（この通りに日本人の家がありますか？）咧拉屋裡否？（御在宅ですか？）

V勿V、A勿A，影山巍解釋為：「同一の動詞或は形容詞を重ね、その間に「勿」を挿めば疑問形となる。北京語の「不」に当たる。」用例有：地隻帽子強來西，儂買勿買？（この帽子は大變安いですがあなたは買ひませんか？）伊本書我勿要，儂要勿要？（あの本は僕はいらぬが、君はいりませんか？）伊件事體伊拉曉得勿曉得？（あの事は彼等は知って居ますか？）地個物事儂看起來好勿好？（この物はあなたが見られて如何ですか？）儂買個地把刀快勿快？（あなたの買ったこの刀物は切れますか？）

4.7 祈使句

錢乃榮（1997：297）指出，“祈使句表示命令、請求、催促、勸告等語氣。”影山

巍『實用速成上海語』の第三章「日用命令要語」，都是“名詞+拿來”的組合，帶有命令語氣，如：自來火拿來。（マッチを持って来い。）煙灰缸拿來。（灰落を持って来い。）等。此外屬於祈使句的還有：請（どうぞ……下さい。）用例有：請進來。（どうぞお這入り下さい。）請儂等一歇。（どうぞ一寸お待ち下さい。）請過來白相相。（どうぞお遊びにいらっしやい。）叫（……をして……せしむる。……に……させる。）用例有：叫伊進來。（彼を這入らせる。）叫用人送信去。（召使に手紙を出させる。）叫男人劈柴板。（男の召使に薪を割らせる。）叫女人汰衣裳。（女の召使に着物を洗はせる。）勿要（……するに及ばぬ、……してはならぬ。）用例有：勿要笑。（笑ふな。）勿要瞎話。（出鱈目言ふな。）勿要打相打。（喧嘩するな。）勿要儂齷齪。（穢くするな。）勿要吃牛皮。（法螺を吹くな。）

4.8 應對句

應對句就是禮貌性用語。影山巍在『實用速成上海語』中總結為：1. 儂來拉者。（いらっしやい。）2. 請裡向坐。（どうぞお這入り下さい。）3. 請坐請坐。（どうぞお掛け下さい。）4. 請上面坐。（どうぞ上座にお掛け下さい。）5. 請用茶吧。（どうぞお茶をお上り下さい。）6. 請吃煙吧。（どうぞ煙草をお上り下さい。）7. 請吃點心吧。（どうぞお菓子をお上り下さい。）8. 請用眼水果吧。（どうぞ菓物をお上り下さい。）9. 謝謝謝謝。（有難うございました。）10. 費心費心。（恐れ入りました。）11. 無甚小菜。（何も御馳走はございません。）12. 東洋菜吃得來否？（日本の料理はお上りになれますか？）13. 吃得來、美好。（戴きます、大變結構でございます。）14. 請幹盃吧。（どうぞ御乾盃下さい。）15. 吃飽者。（十分に戴きました。御馳走を。）16. 慢用慢用。（ご緩りお上り下さい。）17. 叨擾叨擾。（御馳走様になりました。）18. 勿要客氣。（どうぞ致しまして。）19. 勞駕勞駕。（御足労でした。）20. 辛苦辛苦。（御苦労でした。）21. 討厭儂。（御面倒様でした。）22. 阿里阿里。（どうぞ仕りまして。）23. 拜託拜託。（お願ひ致します。）24. 失陪失陪。（失礼致します。）25. 勿要忙。（お急ぎなさいますな。）26. 勿送勿送。（お送り致しません。お送り下さいますな。）27. 待慢待慢。（お粗末でございました。）28. 慢去慢去。（お静にいらっしやい。）29. 有空再來白相相。（お暇の節はお遊びにいらっしやい。）30. 改日會。（さやうなら。）

5. 小結

二十世紀初期日本人所編上海話教材，編排上多分為「散語」和「問答」兩部分，每部分再按話題進行細分。至20世紀30年代，影山巍所著『詳註現代上海語』及『實用速成上海語』開始有現代語法學的雛形，較之前人所編教材，更具學術性，兼具了教材和簡易工具書的功能。兩冊教材僅涉及品詞分類和名詞的意義分類，與當時中國的語法研究——如黎錦熙所著《新著國語文法》（1924年）——可能無太大關係。是否參考

過日本出版的漢語語法教材，有待深入考察。

本文從詞語（實詞）、詞法（虛詞）、句式三個角度對影山巍編寫的兩本上海話教科書進行了分析研究。影山巍的著作相較於之前日本人編寫的上海話教材，其學術價值在於：其一，影山巍個人的學術背景。在中國的北京和上海都曾長期居住並從事語言研究工作，這使得他的學術功底十分紮實。其二，從課本編排來看，以往的課本多以話題來切分，內容上很豐富，但更多的是語言材料的堆砌。最常被劃分歸類的就是詞彙，尤其是名詞，但語法方面幾乎沒有涉足。影山巍以詞為出發點，將上海話的詞彙、句子串連起來，可謂是別具一格，在教材編排方面做出了新的嘗試，也填補了之前教材忽視語法的空白。

参考文献

- 影山巍（1936），『詳註現代上海語』，東京文求堂。
——（1937），『實用速成上海語』，東京文求堂。
嚴美孫（1924），《上海俗語大辭典》，上海北車站雲軒出版部。
閔家驥、范曉、朱川、張嵩岳（1986），《簡明吳方言詞典》，上海辭書出版社。
許寶華、湯珍珠（1988），《上海市區方言志》，上海教育出版社。
許寶華 陶寰（1997），《上海方言詞典》，江蘇教育出版社。
錢乃榮（1997），《上海話語法》，上海人民出版社。
錢乃榮（2018），《上海話大詞典（第二版）》，上海辭書出版社。
石汝傑、宮田一郎（2005），《明清吳語詞典》，上海辭書出版社。